科学館の



ジョルダン式日照計

資料登録番号 2019-04

古くから使用されてきたりいら使用されて、気気にいたいたの中頃までも、明治の中頃から1986年頃まで中でいたようです。小に大変を塗った紙を塗った紙を塗った紙を塗った紙をがり、ピンホールを感光、ピンホールを感光紙に記録です。方式の日照計です。





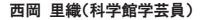
ジョルダン式日照計 左:外観 上:内部の様子

円筒には2つの穴があり、穴は円筒断面上で直角になるようあけられています。設置するときは、円筒の軸を真南北に、傾きを緯度に合わせます。太陽の光が穴から入ると感光紙が感光し、太陽の動きを線として記録することができます。感光紙には時間の目盛り線が印刷されており、感光した時間を読み取って日照時間を測定します。

現在の気象庁地上気象観測で使用されている日 照計は、回転式日照計です。ガラス円筒の中で回転 する鏡に反射した太陽光を受光素子で受け、受光量 の大きさから日照の有無を判別します。

また、以前アメダスでは、太陽電池の出力の大きさから日照の有無を判別する太陽電池式日照計も使用されていました。実は、科学館4階で展示している「ミニ露場」に設置している日照計が、まさに、「太陽電池式日照計」です!

今回ご紹介した「ジョルダン式日照計」は、6/21(火)より開催する企画展「気象の科学展~天気予報ができるまで~」で展示する予定です。企画展では他にも、昔使用されていた気象測器や資料など、普段は紹介していない内容盛りだくさんでお届けする予定です★





回転式日照計



太陽電池式日照計

大阪市立科学館では、化学・物理・天文学・科学技術に関連した資料を収集しています